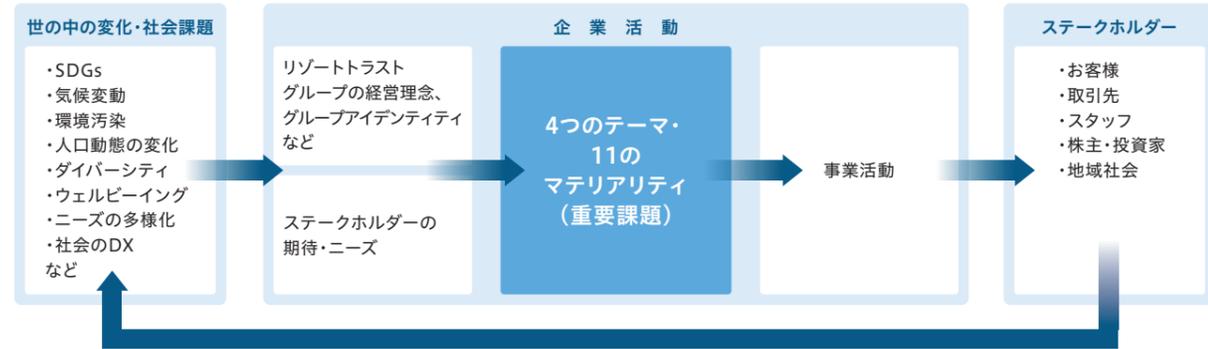


マテリアリティとリスク・機会

4つのテーマ・11のマテリアリティを特定

当社グループでは今後も将来に向けて社会とともに持続的に成長するために取り組むべき重要課題として、4つのテーマ・11のマテリアリティを2022年に特定しました。特定に際しては、お客様や株主・投資家、スタッフをはじめとした各ステークホルダーの関心や期待、経営理念及びグループアイデンティティとの関連、事業への影響などを踏まえ、重要性を評価しました（▶マテリアリティ特定プロセス（[E P.43](#)）参照）。現在、サステナビリティ委員会を中心とした推進体制（▶サステナビリティ経営（[E P.42](#)）参照）の下で、マテリアリティの事業戦略への統合、社内への浸透を進めています。

■ マテリアリティの位置づけ



■ リゾートトラストグループのマテリアリティ

区分	カテゴリ	マテリアリティ	KPI目標	2025年3月期	関連ゴール
E	地球 E P.44 ~	環境負荷の低減（自然と共に生きつづける）			
		① GHG排出量の削減	● GHG (Scope 1,2) の削減量 (連結) 2030年:2019年度比 40%減 2050年:カーボンニュートラル	142,216t-CO ₂ 2019年度比 0.3%減	
		② 廃プラスチック・食品ロスの低減	● 特定12品目*の提供量削減量 (単体) 2027年度:2019年度比 40%減	31.9t 2019年度比 26.8%減	
	③ 生物多様性の保全	● 食品廃棄物の再生利用等実施率 (単体) 2027年度:65.6%	60.0%		
S	繁栄 E P.24 ~ E P.49	「一緒にします、いい人生」の実現 / グループ独自の付加価値の共創			
		④ 一人ひとりの人生に寄り添うサービスの提供	● 会員数 (連結) 2027年度:22.5万人	20.5万人	
		⑤ サービスの品質・安全性・革新性の追求			
	⑥ 地域活性化への貢献				
人	人 E P.37 ~	スタッフの「いい人生」			
		⑦ ダイバーシティ&インクルージョンの推進	● 女性管理職比率 (連結) 2027年度:25%	20.7%	
		⑧ 全スタッフの「しあわせ」の追求	● 男女間賃金格差 (連結) 2027年度:75%	67.8%	
	⑨ 能力・キャリアの開発	● 男性育児休業取得率 (連結) 2027年度:85%	77.3%		
G	ガバナンス E P.50 ~	ガバナンス強化			
		⑩ 透明性の高い公正な事業運営	ガバナンス、リスク・マネジメント体制を強化し、投資家との建設的な対話を通じて、企業価値向上に努めていきます。	機関投資家とのIRミーティング、年間236回	
	⑪ 非財務情報の開示とステークホルダーとの対話促進				

(注1) ESG報告ガイドライン「ステークホルダー資本主義測定指標」に基づきカテゴリに分けています (注2) モニタリング指標や目標値は今後継続して審議していきます
※「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に基づき政令で定める特定プラスチック製品12品目。実績はバイオマス等を除くバージンプラスチックの量を記載

➔ リゾートトラストグループが考えるリスクと機会

気候変動や資源枯渇、環境汚染といった地球環境問題を背景に、さまざまなリスク要因が想定されますが、当社グループの事業においては、それらを機会と捉えることもできると考えています。



当社グループにとってのリスク・機会	具体的な対応策	マテリアリティとの関連
当社会員及び日本国内の高齢化に対応したサービスの拡充	● 会員基盤を最大限に活かした新規レジデンス型商品の展開 ● 訪問看護ステーションの開設、ホスピスケアサービス	4 5
より環境に配慮し、お客様からの共感に基づく事業運営	● 全ての会員制ホテルとゴルフ場に太陽光パネルの設置 ● 蓄電システム等による最適なエネルギーシステム導入の推進 ● 客室アメニティの包材等での廃プラスチックの削減	1 2 3
ニーズにきめ細かく応え、生産性を飛躍的に高めるDX	● デジタル投資、ITリテラシー向上 ● デジタルマーケティングの推進 ● グループ人財データ一元管理と有効活用	5 9
人財が集まり、定着し、活躍する独自の仕組みの構築	● 業務時間外に発生する拘束時間の短縮、廃止 ● ワークライフバランスを重視した育児や介護との両立支援 ● リファラル採用、外国籍人財採用など多様な人財へ活躍の場を提供	6 7 8 9
データ資産をもとにした、テラーメイド・ソリューション	● 統合データベース整備とAI活用によるテラーメイドサービス（受診結果に基づくサプリメントの開発・提供など） ● 会員同士のネットワークングによる倶楽部の活性化	4 5
多様化する富裕層ニーズへの提案、海外需要の取り込み	● 他社とのアライアンスを活用したより幅広い価値提供 ● 海外富裕層倶楽部との提携 ● 「余暇と健康」に「未来への価値観」を融合した豊かさの提案	4 5

➔ 事業活動を通じたマテリアリティのKPI進捗管理と独自性の追求

マテリアリティについては、サステナビリティ委員会において、定期的に目標達成への進捗およびその取り組みについて確認・議論を行っています。法令等により定められた各種指標を起点に、ただしそれらの達成だけを目的にせず、私たちは何のために取り組み、それによって何を指すのかを、委員長である代表取締役 社長執行役員 COO、各本部長及び執行役員が各本部推進担当者とともに議論し、次なる施策の実行へとつなげています。

2025年7月に開催した第5回サステナビリティ委員会では、グリーンエネルギーの活用、廃棄物削減からの資源循環、人的資本経営の現在地とありたい姿などについて各部門より報告しました。さらに、会員様や地域と共に価値を生み出すために、各施策をより具体的かつ明確にし、実効性を高めて取り組むべきだという方向性が示されました。

今後は、当社グループならではの会員制事業ビジネスを踏まえ、私たちだからこそ創出できる価値を追求していくために、独自のマテリアリティや目標設定をグループ内で検討し、新たな取り組みに挑戦し続けていきます。